

# びったらばし びったら橋

氾濫との戦いを物語る

江戸時代末期まで、諏訪湖の排水を妨げるような橋を架設することができなかったことから、川の中に石を置き、その上に板を渡して渡った。

板が安定するように石の上に平らなくぼみを彫り、増水時、板が浮いても流れないように、綱を石の穴に通して結んだ。通行人が歩くと、橋板がたわんで川面を「びたびた」と打つため、「びったら橋」といわれたという。



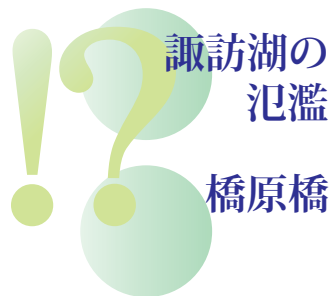
橋原橋の脇に移設してある



頭上に見えるのは高速道路の高架橋

## information

- アクセス  
中央本線岡谷駅  
南口から600m  
徒歩→8分
- 所在地  
岡谷市御倉町



江戸時代、諏訪湖はよく氾濫した。このため、諏訪藩は、流れを妨げるものを天竜川に設置することを認めなかった。橋も認められず、渡し舟か、びったら橋が頼りだった。

「旧蹟年代記」によれば、橋原橋について「弘化二巳年(1845(弘化2)年)始テ天竜川ニ長サ三十二間(約57.6m)ノ橋掛ル」とあり、この年の橋原橋の架設によって、びったら橋は取り払われた。



(国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用)